

組織所在地:本山町のご紹介①



<町の概要> 総面積 134.21km2 人口 3371人 (2021年8月) 高齢化率 45%を超える

<棚田が自慢!> 標高 約250m~800m 耕地面積 約280ha



本山町のご紹介② 主な農産物













「多面的機能支払交付金」運営組織の概要

●組織名:「土佐天空の郷保全会」 まち自慢のお米に名前を由来







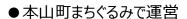
●対象農用地: 【田】18,243a 【畑】 1,223a



●対象施設: 【農道】 35.6km 【水路】 56.4km



●構成員の数: 430名、2法人







組織設立の背景

- 1) 担い手の高齢化・減少
 - ・従来の草刈り・田役 → 農家のボランティア活動で実施
 - ・農家が高齢化… → 年々、参加人数が減少
 - ・農地を守る活動の継続が年々難しくなってきている
- 2) 農業用施設の老朽化・損壊
 - ・山間部ゆえ農地面積に対して水路・農道が長い
 - ・そういった施設の老朽化・災害により損壊が発生
 - ・地域でも施設の維持ができる人が減少…
 - ・お金のない地区は修繕が難しい
- 3) 農業用施設の不整備
 - ・もともと整備されていない施設(土道、土水路)が多い
 - ・農業を営むための労力が多分にかかり、耕作の継続を諦めるケースも



田役(水路掃除)の様子

組織 設立を決めたきっかけ

それらの課題に対して,,,

- ・各集落が独自で動くのではなく、まちぐるみで各地域の課題に対処できないか?
- ・町の景観を守るという観点でも農家以外の方にも参加いただけないか?



まち全体で多面的機能支払交付金を活用すると、、、

- ●無償で行われていた草刈り・田役に対し、日当などを支払う仕組みで 地域の農家以外のメンバー(例:同集落内の非農家、他集落の方々) の参加を促すことができるのでは?
- ●従来は施設修繕に費用を捻出できなかった集落でも施設の代規模修繕ができるようになるのではないか?



具体的な運営方法や活動の内容等

具体的な運営方法① 事務局と委員の役割

- ●令和2年3月に「土佐天空の郷保全会」を設立
- ●本山町農業公社を拠点とし、同公社職員が 2名体制で事務局(計画まとめ・実績集計・支払いなど)を担当
- ●18の各地区に地区を「委員」を配置し、「委員」が 集落内での意見調整、一斉活動への参加呼びかけを実施



具体的な運営方法② 地区の事情に沿った活動計画策定

- ●各集落に農地面積の大きさに応じて予算を割り振り
 - → その予算内で地域の活動を策定するよう委員にお任せ

	予算合計
大石	¥1,851,129
栗ノ木	¥180,435
坂本	¥162,024
下関	¥559,872
下津野	¥711,066
助藤	¥257,226
高角	¥500,625
日浦	¥132,549
古田·権代	¥2,868,741
松島·木能津	¥192,864
本山	¥484,014
吉延	¥2,109,567
上関	¥508,578
地区合計	¥10,518,690

- 鳥獣害柵の設置や撤去、水路掃除、草刈りなど多数予定 11月下旬 鳥獣害防止柵の撤去 1月下旬 坂本 農道の補修および改修 水路土砂除けど補修 3月下旬 坂本 坂本 農道の草刈 簡易取水ボンブ設置(臨時的) 7月下旬 坂本 農道の草刈 7月下旬 坂太 9月中旬 鳥獣害防止柵の設置 坂本 農道及び鮮の草刈 9月中旬

具体的な運営方法③活動実施後の報告方法

●各地区での活動実施後、各委員から事務局へ実施報告が提出されます







具体的な運営方法④ 事務局での報告情報取り扱い

●例えば坂本地区では,,,

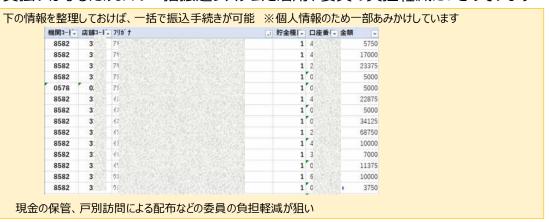
●事務局では活動報告を紙保管するとともに、データベース「楽ちん多面」へ登録



この他、個人別の支払い明細がわかったり、期末に役場へ提出する報告書を自動で作成してくれたりととても便利です。

具体的な運営方法⑤ 構成員への支払い

支払いはなるだけJAの一括振込システムを活用、委員の負担軽減につとめています



現金配布を要望する地区に対しては現金で対応しています。

具体的な運営方法⑥ 長寿命化案件の検討

●面積が小さい地区に配慮した運営について 年間200万円を共通資金として充当。各地区から長寿命化したい案件 (費用試算もあわせて)を提出頂き、委員会で優先順位を検討、決定。



このうち、合議により4地区の案件を2020年度実施することで合意。

具体的な運営方法② 長寿命化申請用紙

- ●それぞれの長寿命化の案件については、各委員から「長寿命化申請用紙」を 提出頂き、事務局としてしっかり内容を把握
- ●委員から要請があれば、事務局も現場に出向き、資料作成も代行しています



具体的な運営方法® 対象 農地の確定

- ●水土里ネット高知が提供する「水土里情報システム」を導入し活用
 - →地籍調査の結果(地番・面積)が突き合わせられるので計画策定に重宝



クリックすると、その土地の詳細情報を表示

小字コード(4) 小手名 地質 et m 地番表示(自動) | 字コード||小字コード||07953#1000000037031000000000000007066000000000 F3-ド小字3-ド地(0000001,3316,708-3 用地区分名 使用区分名 地域区分名1 地域区分名2 農用地区地名 所有者コー州の 所有着名 群作者コード(5) 耕作者名 查记簿地目名 型記簿图模(m2) 概义地目名

具体的な活動紹介



草刈り



構成員による農道のコンクリ舗装(直営施工)





2021年1月末までの 報告で、<u>のベ72日・</u> <u>500人</u>が活動を 実施しました



良かった点

- ●今までボランティアだった活動に賃金が出ることを構成員が喜んでくれており、 当初の展望であった集落外の参加者の増加に繋がる手応えをつかむことが出来た。
- ●面積が広い地区も狭い地区も、これまで以上に施設の補修や更新を行うことが 出来ている。これが農地を守ることにつながっていくと感じている。
- ●長寿命化案件を皆で話し合う場を持つことで、施設更新のノウハウを横展開する空気が生まれている。
- ●「土佐天空の郷保全会」が各地区の課題の共有化・集約化の場として機能している。
- ●役場、委員各位ともに非常に協力的で、事務局として多くのサポートをいただくことが でき、ありがたかった。

悪かった点

- ●各地区の委員にかける負担が大きかった(名簿収集、活動報告のとりまとめ)
- ●地区ごとに交付金に対する理解にズレがあり、報告書の精度や活動の仕切りに ばらつきがある。
- ●地区ごとに予算を割り振っていることもあり、自分の地区への交付金という 考えが起こりがち。

※本来は一つの団体が予算の交付を受け、それを面積に 応じて配分しているわけでそれぞれの地区のお金ではない。

事務局として苦労した点

- ●各地区からの情報収集(活動計画、構成員情報)してから計画申請をするまでの工数が非常にかかった。特に、構成員が400名あまりと多かったのでこの情報整理に苦労した。
- 農道・水路の把握。特に水路に関しては町全体で網羅的に情報をまとめているものがなく、自分で現場に足を運んだり、委員に現場案内を頂きながら集約していった。
- 支払いの件数が多いこと。年末に100件あまりの口座への一斉振込を実施した際は 支払いの明細チェックや口座の最終確認に時間と神経を使った。



今後の展望

- ●委員の負担軽減(LINEなどスマホツールの活用)
- ●活動への参加者の多様化促進(地区内の非農家、地区外の構成員の参加)
- ●修繕・更新を繰り返し、「もう修繕する施設がない」「農業が行いやすい」環境 を目指す